

報 告

我が国の高齢者サロンに関する文献的検討

才津 旭弘, 小谷 和彦

自治医科大学 地域医療学センター 地域医療学部門

要 旨

我が国では、全国の各地域で高齢者サロンが開催されている。超高齢社会の進行に伴って、高齢者サロンのコンセプトは変化してきている可能性があり、研究報告にそれは反映されているかもしれない。そこで、我が国の高齢者サロンの文献をもとに報告数や研究対象を検討することにした。医学中央雑誌とメディカルオンラインを使用して、高齢者サロンに関する原著論文（和文）を検索した。検索を経て50論文を抽出した。2004年以降、報告数は経時的に増加していた。研究の対象を見ると、サロン参加者（27報告）、サロンの支援団体（15報告）、地域全体（8報告）の3つに分類できた。経時的に見ると、初期にはサロン参加者の報告が中心であったが、サロンの支援団体の報告が加わり、2011年以降になると地域全体に着目した研究が出てくるようになっていた。このことから、高齢者サロンには参加者のみならず、地域全体への視点も加わる取り組みに展開しつつある可能性が窺える。

（キーワード：介護予防，健康寿命，ソーシャル・キャピタル，通いの場，地域包括ケア）

緒言

我が国の高齢化率は上昇しており、総人口の30%弱を占めるようになってきている¹⁾。こうした中で、高齢者に対する健康寿命の延伸のための活動は推進されている²⁾。高齢者サロンもその活動の一部と考えられる。これは「ふれあい・いきいきサロン」事業で、地域を拠点に、参加者と支援団体が協働で企画して、仲間づくりを含む活動とされている³⁾。現在、高齢者サロンは、様態は様々（サロンの名称も地域で異なり得る）であるが、全国的に広まりつつある⁴⁾。

高齢者ケアを巡る地域づくりや地域福祉の考えが変化する中で⁵⁾⁶⁾、高齢者サロンのコンセプトもまた変化してきている可能性がある。この変化は、文献報告に部分的にでも反映されているかもしれない。そこで、本研究では、高齢者サロンに関する文献の数や研究対象について観察することにした。

方法

医学中央雑誌 (<https://search.jamas.or.jp/>) とメディカルオンライン (<https://www.medicalonline.jp/>) のデータベースを用いて、2021年3月1日までに収載された原著論文(和文)を検索した。高齢者サロンに関する検索語には、高齢者サロンの他に、代用として使われることのある語を採用した [検索式：(高齢者サロン/AL or 地域サロン/AL or いきいきサロン/AL or ふれあいサロン/AL)]。

高齢者サロンについては、一般に用いられるような、高齢者が集い、通う場所と定義して³⁾⁴⁾、得られた論文の内容の適格性を判定した。その上で、得られた論文の研究対象を著者らで分類した。分類に迷う場合には、著者間で協議して分類を決定した。

結果

医学中央雑誌での検索で、高齢者サロンに関する50報の原著論文を抽出した。メディカルオンラインで検索された全論文が、医学中央雑誌での検索論文に含まれた。原著論文は2004年に初めて見られ、サロン参加者の自尊感情に関する報告であった⁷⁾。報告数は経時的に増える傾向にあり、2016年に最多（9報告）を示した（図1）。

得られた論文から、研究の対象に着目して整理すると、「サロン参加者」、「サロン支援団体」、「地域全体（サロンへの参加を問わない、住民を含む）」の3つに分類できた。この分類では、サロン参加者が27報告⁷⁻³³⁾、支援団体が15報告³⁴⁻⁴⁸⁾、地域全体が8報告⁴⁹⁻⁵⁶⁾であった（表1）。サロン参加者を対象とした報告は2004年に初出し、2019年が最多（7報告）で、またサロン支援団体を対象とした報告は2005年に初出し、2016年と2018年がそれぞれ最多（3報告）で、さらに地域全体を対象とした報告は2011年に初出し、2016年が最多（4報告）であった。

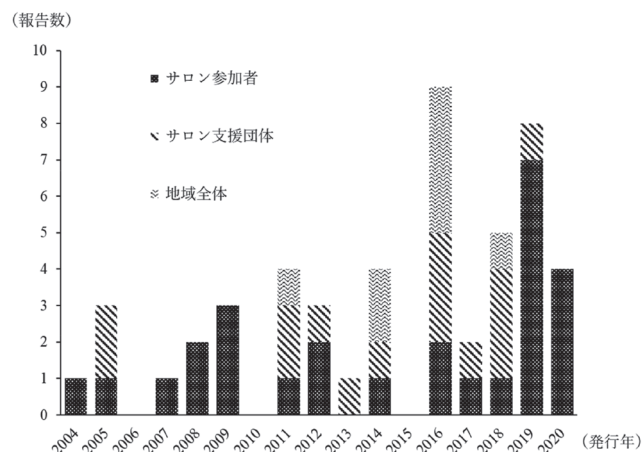


図1 論文の経時的報告数：研究の対象別

サロン参加者を対象とした研究では、サロンのニーズや意義、心身への影響、生活の質や価値観、介護予防についての報告が主だって見られた。

支援団体を対象とした研究では、サロンを支援するボランティアに関する検討が見られた。特にサロンを支援する医療福祉の専門職の役割や、行政との連携、また看護学部生や社会福祉学部生における学びに関して検討されていた。

地域全体を対象とした研究では、地域住民の参加状況、また住民参加に関連する要因や参加による全般的な健康の傾向について検討されていた。地域住民への認知症ライフサポート研修の報告や地理情報システムに基づいた高齢者サロンの最適配置に関する報告もあった。

表1 文献一覧

タイトル	筆頭著者、発行年、文献番号	概要	主な研究対象 (分類番号：①サロン参加者、②支援団体、③地域全体)
高齢者サロンにおけるポジティブ作業に根ざした実践の臨床的有用性	清家, 2020, (8)	簡易版のポジティブ作業は、サロンで実施でき、高齢者の幸福に寄与した。	参加者 (①)
地域で暮らす後期高齢者の日常のなかでいただく生きる希望	倉田, 2020, (9)	老いを肯定的に受け入れる実践は、健康な状態で生きる希望を持たせた。	参加者 (①)
高齢者を対象とした地域サロンの参加者における組織コミットメントとその関連要因	竹田, 2020, (10)	参加者の組織コミットメント（情緒的、規範的、集団同一視）は年齢と正に関連した。	参加者 (①)
中山間部で生活する高齢者に対する健康教育が主観的健康統制感に与える影響	小島, 2020, (11)	健康教育を経て、健康問題の解決に関する意識が改善した。	参加者 (①)
地域在住高齢者の片脚立位保持における二重課題干渉に関連する因子の検討	佐々木, 2019, (12)	片脚立位保持中に認知課題を付加すると、立位保持時間が短くなった。認知機能の低下は二重課題干渉に影響した。	参加者 (①)
地域と連携したいいきいきサロン利用者・クリニック患者送迎	小川, 2019, (13)	運転ができる高齢者においても送迎サービスの需要があった。	参加者 (①)
高齢者版達成動機尺度 (Scale for Achievement Motive in Geriatrics) の開発と妥当性、信頼性の検討	佐野, 2019, (14)	高齢者版達成動機尺度は簡便で、高齢者の価値観を把握できた。	参加者 (①)
高齢者はなぜ高齢者サロンに参加しないのか	Iwasaki, 2019, (15)	サロンに参加しない理由として、元気である、他の社会活動で忙しい、人間関係が煩わしいことが抽出された。	参加者 (①)
男性高齢者における地域サロンへの参加と地域ネットワークの関連	前川, 2019, (16)	サロンへの参加と地域ネットワークの関連性には、性別による差はなかった。	参加者 (①)
豪雪地帯に暮らす後期高齢者のストレスの検討	大口, 2019, (17)	参加者は、暮らしから得た個人のストレスと、環境のストレスを豊富に持っていた。	参加者 (①)
地域高齢者の健康づくり活動の支援	丸山, 2019, (18)	介護予防プログラムは、健康づくりに有効であった。	参加者 (①)
協働学習による「学生主体活動型地域サロン」実施後の学生が語った学びと課題	渡邊, 2019, (34)	サロンの支援活動を通して社会福祉学部生と看護学部生は、自他学部の特徴を理解した。	学部生 (②)
離島地域における高齢者サロンでの主たる活動内容の違いによる参加動機、主観的健康効果への影響	中垣内, 2018, (19)	活動内容は、参加動機や主観的健康効果に影響し得る。	参加者 (①)
中山間地域における「子育て親子ふれあいサロン」づくりを体験した保健師課程選択学生の学び	高尾, 2018, (35)	サロンの支援者として参加した看護学部生は、親の子育て、家事や仕事のストレスがあることを理解した。	学部生 (②)

ふれあいいきいきサロン等の調査による介護予防・日常生活支援総合事業の展開	上村, 2018, (36)	介護予防としての活動には、経済的支援、ならびに行政との連携と支援が必要であった。	サロン支援団体 (②)
介護予防と生活支援の観点からみた自治会互助活動の現状	高井, 2018, (37)	見守りや声かけは行われていたが、生活支援は少なかった。	校区福祉委員会 (②)
認知症ライフサポート研修受講による「認知症支援意識」の変化について	森岡, 2018, (49)	認知症ライフサポート研修は、認知症への否定的意識を減少させ、地域支援への理解を深めた。	地域住民 (③)
高齢者サロンにおける男性の参加要因に関連する探索的検討	田島, 2017, (20)	男性の参加要因は、後期高齢者、退職後、近所関係良好、自力移動可能、地域役員、積極的な社会活動であった。	参加者 (①)
ふれあい・いきいきサロンボランティアの自由記述にみる、サロン活動の効果実感について	黒宮, 2017, (38)	ボランティアとしての参加は、楽しみややりがいにつながった。	支援ボランティア (②)
地域サロンに参加する女性高齢者の口腔の健康への認識と外出頻度との関連	渡邊, 2016, (21)	口腔への健康意識は、活動能力や外出に対する自己効力感と残存歯数を介して、外出頻度に影響していた。	参加者 (①)
「ふれあいサロン」が参加者に与える影響と求められる看護職の役割	茂木, 2016, (22)	サロン参加後には、笑うことと外出が多くなったという変化に加え、認知症に対する関心が高まった。	参加者 (①)
独居高齢者サロンにおける高齢者のボランティア活動の実態	小石, 2016, (39)	ボランティアの個々の特性を活かした役割分担は機能的な活動につながった。	支援ボランティア (②)
長崎県松浦市における地域診断支援ツールを活用した高齢者サロンの展開JAGESプロジェクト	谷山, 2016, (40)	地域診断支援ツールで課題を見える化し、情報を共有して住民と多職種が連携して住民主体の通いの場を開設した。	保健師 (②)
地域の介護予防活動の推進における保健師の役割について	山下, 2016, (41)	支援者は、保健師と連携し、介護予防、住民のニーズの把握、地域包括ケアシステムの構築を推進する必要があった。	サロン支援団体 (②)
介護予防事業の身体的・精神的健康に対する効果に関する実証分析	今堀, 2016, (50)	介護予防事業の参加群は非参加群に比べて、精神的に健康であった。	地域住民 (③)
高齢者ふれあいサロンへの参加と外出行動	白瀬, 2016, (51)	サロンに参加すると、外出頻度が維持された。	地域住民 (③)
高齢者サロン参加の有無と属性および社会関連性指標との関連要因	古川, 2016, (52)	サロンへの参加要因は、女性、定期通院、社会活動への参加であった。	地域住民 (③)
地域在住高齢者の健康増進に対するグループ活動の効果	Fukasawa, 2016, (53)	開催頻度の多さが、健康増進に効果的であった。	地域住民 (③)
ミニデイサービスに参加する独居女性高齢者の要介護リスクと主観的幸福感の関連	西川, 2014, (23)	独居女性は、主観的幸福感における孤独と運動機能・栄養状態・口腔機能との間に負の相関があった。	参加者 (①)
高齢者の介護予防をめざすボランティアへの保健師の支援	家根, 2014, (42)	支援ボランティアは、保健師からの継続的な支援を求めている。	支援ボランティア (②)
地理情報システムに基づいた高齢者サロンの最適配置に関する研究	古川, 2014, (54)	公共施設をサロン活動として活用することで交通のアクセシビリティの問題を解決できる可能性があった。	サロンと公共施設の立地情報 (③)
養父コホート研究 デザインおよびベースライン時の参加者のプロフィール	Murayama, 2014, (55)	町内会活動の参加率は82.4%、予防的ケアのセミナーの参加率は49.9%、地域サロンの参加率は55.5%であった。	地域住民 (③)
保健師教育における技術教育 地域の高齢者サロンでの健康教育実践からの学生の学び	倉林, 2013, (43)	看護学部生は、地域における人材との関わり、集団への教育技術、質問に対する知識の必要性を理解した。	学部生 (②)
介護予防運動「お元気ちゃんちゃん体操」の効果	稲垣, 2012, (24)	サロンへの参加と自宅での介護予防運動で、身体機能が改善した。	参加者 (①)
地域高齢者に対する転倒予防体操教育プログラムの評価	藤村, 2012, (25)	転倒予防体操は有効で、1年後の体操の継続者は約7割であった。	参加者 (①)
急激な高齢化が進むK町における高齢者ふれあいサロン事業の評価	山下, 2012, (44)	サロン支援団体は、役割に応じた住民支援を必要とした。	サロン支援団体 (②)

寝たきり予防の取り組みについて	小石, 2011, (26)	寝たきり予防カルタ作りの参加者は、寝たきり予防を理解した。	サロン参加者 (①)
高齢者に対するDVDを使った口腔体操実施上の課題	橋本, 2011, (45)	高齢者が少ない施設やサロンではDVD教材での口腔体操が有用であった。	サロン支援団体 (②)
住民による高齢者サロン運営の課題と対策	石飛, 2011, (46)	サロンでは様々な組織と、運営の課題について協議するとともに、運営側への情報提供が有用であった。	サロン支援団体 (②)
高齢者の割合が非常に高い地域での安全、安心、健康の町プロジェクト開発	Hoshino, 2011, (56)	サロン活動によって、高齢者の孤立を減らせた。	地域住民 (③)
アクティビティが高い地域高齢者のQOLと睡眠健康度との関連	中林, 2009, (27)	参加者では生活の質が低いほど睡眠の質が低下した。	参加者 (①)
インフォーマルな高齢者サロンの役割に関する一考察	小石, 2009, (28)	参加者には共通の関心事や社会的背景があり、交流で個人の生活力は高まった。	参加者 (①)
要支援の高齢者がふれあいサロンに適切していくプロセスにおける支援者の役割	椎名, 2009, (29)	初参加者の気持ちに配慮した対応やストレスの活用を経て、参加者の創造性を高めることが重要であった。	参加者 (①)
参加者の視点からみた高齢者「ふれあい・いきいきサロン」の意義	豊田, 2008, (30)	サロン活動は、人間関係を豊かにしていくための地域づくりであった。	参加者 (①)
過疎・高齢化が進むA町の高齢者サロンに参加する地域高齢者の健康に対する意識と介護保険に対する認識・ニーズ	松浪, 2008, (31)	居住地域によって健康・介護問題に対する捉え方に差があった。移動手段、運動、生活支援の相談窓口に関する需要があった。	参加者 (①)
秋田県横手市における「健康の駅事業」への取り組み	願法, 2007, (32)	健康体操を継続することで運動機能が改善した。	参加者 (①)
地域サロンに参加する高齢者を対象とした転倒予防プログラム	北村, 2005, (33)	足指体操のプログラムは高齢者のバランス能を高めた。	参加者 (①)
介護予防事業への男性参加に関連する事業要因の予備的検討	大久保, 2005, (47)	男性では介護予防事業への参加割合が低く、それには事業の周知方法、活動内容、地域特性が影響した。	自治体 (②)
在宅看護職の会「さが」若葉会の成長発展とその支援	林田, 2005, (48)	会員の動機づけ、活動PR、事務局の役割分担、安定した財源確保、活動の評価、楽しい活動内容がサロン活動の発展に必要であった。	在宅看護職 (②)
地域サロン参加による高齢者の自尊感情に影響を及ぼす要因	北村, 2004, (7)	自尊感情と主観的健康観には正の関連があり、自尊感情の向上が生活の質を高めた。	参加者 (①)

考察

本研究では、高齢者サロンに関して、研究対象に着目して文献的検討を試みた。ここでは、報告数が増加していること、そして研究対象としてサロン参加者、サロン支援団体、さらに地域全体への視点の報告があることを見出した。

高齢者サロンの報告数の増加は、高齢者増と同サロンの全国的な広まり¹⁾⁴⁾、また同サロンの役割が年々増してきていることと関係しているように思われる。2012年に地域包括ケアシステムの構築が謳われ、2025年に向けて地域での介護予防（地域の実情に応じた地域づくりの中で予防を推進すること）が重要視されたことと連動して高齢者サロンがその役割を担うようになっていくことが関連要因の一つとして考えられる⁵⁷⁾。事実、高齢者サロンが、地域包括ケアシステムの介護予防における「通いの場（介護予防事業における高齢者の社会参加の場）」と一体化したところも見られている¹⁸⁾²⁴⁾³⁶⁾⁴⁰⁾。

研究対象の分類は、高齢者サロンの性質³⁾からは妥当と思われた。むしろ、この研究対象の経時的変化が興味深い。すなわち、報告はサロン参加者から始まり、それに支援団体、さらには地域全体が加わってきており、サロンのコンセプトが時代の成熟に伴う変化と合わせて変遷しているようで興味深い。以前の高齢者サロンにおいては、同サロンを成立させ、存在感を示すために、参加者を増やし、その参加者の主体性を引き出すプログラムを立案することがポイントとされた³⁾。参加者を対象に研究が始まったのはもっともである。超高齢社会の進行に伴って、参加者に加えて支援者も高齢になり、住民同士の支え合いが課題の一つになった¹⁶⁾²⁰⁾⁴⁶⁾⁵⁸⁾。高齢者サロンには、参加者や支援者を含む住民同士のつながりを構築する場としての役割も強く認識されるようになった⁵⁹⁾⁶⁰⁾。これが参加者や支援団体に関する報告増につながっていったと考えられる。さらには、地域包括ケアと連動する流れの他に、地域課題である認知症サポーターの養成⁴⁹⁾⁶¹⁾やソーシャル・キャピタ

ルを醸成する場としての期待が付与され⁶²⁾⁶³⁾、地域全体への視点に進んできたように思われる。

本研究は文献を元に検討しており、検索された中でのサロンの一面を捉えて論じているという点には留意を要する。高齢者サロンに関する文献は、2004年以前にも記事のような様式で見られはするが⁶⁴⁾、研究の質を一定に保証するために、今回は原著論文のみで検討する姿勢をとったことも付言しておきたい。また、高齢者サロンの名称は地域ごとに比較的自由度をもって決められ、検索語の基準上、全ての報告を捉え切れていない可能性がある⁶⁵⁾⁶⁶⁾。図1に示すように2006年、2010年、2015年に報告された論文を検出し得なかった理由は明らかではないが、この検索の問題が関わっている可能性もある。今後、検索語を工夫するとともに、現場からの調査も加える必要がある。

結語

高齢者サロンに関する研究は増えている。最近では、高齢者サロンには参加者のみならず、地域全体への視点も加わる取り組みに展開しているように思われる。この展開に鑑み、高齢者サロンが地域に根差していく動向に注視しながら、さらに研究を進めていきたい。

謝辞

本研究は、公益財団法人 地域社会振興財団の助成を受けて行った。

利益相反

申告すべき利益相反なし。

文献

- 1) 内閣府. 令和2年版高齢社会白書
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/zenbun/02pdf_index.html [Accessed March 2, 2021].
- 2) 厚生労働省. 健康日本21 (第二次)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21.html[Accessed March 2, 2021].
- 3) 全国社会福祉協議会: あなたもまちもいきいき! 「ふれあい・いきいきサロン」のすすめ-寝たきり・痴呆予防にも, pp.2-14, 全国社会福祉協議会, 東京, 2000.
- 4) 全国社会福祉協議会: NORMA社協情報2012, pp.2-5, 全国社会福祉協議会, 東京, 2012.
- 5) 飯島勝矢. 地域創生に病院は貢献するか Aging in Placeとしてのまちづくり. *病院*, **74**: 492-497, 2015.
- 6) 黒岩亮子. 日本における世代間交流の展開. *社会福祉* **59**: 85-95, 2019.
- 7) 北村隆子, 白井キミカ, 筒井裕子: 地域サロン参加による高齢者の自尊感情に影響を及ぼす要因. *人間看護学研究* (1): 1-9, 2004.
- 8) 清家庸佑, 野口卓也: 高齢者サロンにおけるポジティブ作業に根ざした実践の臨床有用性 前後比較試験を通じた介入効果の予備的検討. *作業療法* **39**: 548-556, 2020.
- 9) 倉田結圭, 沖中由美: 地域で暮らす後期高齢者の日常のなかでいただく生きる希望. *ホスピスケアと在宅ケア* **28**: 110-118, 2020.
- 10) 竹田汐里, 佐伯和子, 水野芳子: 高齢者を対象とした地域サロンの参加者における組織コミットメントとその関連要因. *日本公衆衛生看護学会誌* **9**: 18-26, 2020.
- 11) 小島拓治, 檜葉雅人, 谷口美香, 他: 中山間部で生活する高齢者に対する健康教育が主観的健康統制感に与える影響. *日本看護学会論文集: ヘルスプロモーション* (50): 187-190, 2020.
- 12) 佐々木賢太郎, 大井貴文, 岩上倫太郎: 地域在住高齢者の片脚立位保持における二重課題干渉に関連する因子の検討. *金城大学紀要* (20): 1-6, 2020.
- 13) 小川晃子: 福祉の現場から 地域と連携したいいきいきサロン利用者・クリニック患者送迎. *地域ケアリング* **21**: 42-45, 2019.
- 14) 佐野伸之: 高齢者版達成動機尺度 (Scale for Achievement Motive in Geriatrics; SAMG) の開発と妥当性, 信頼性の検討. *総合リハビリテーション* **47**: 1221-1229, 2019.
- 15) Iwasaki R., Hirai K., Aminaka K.: Why don't older persons attend senior salons?: Interviews with older persons living in a rural area of Japan. *日本健康学会誌* **85**: 141-150, 2019.
- 16) 前川海, 河野あゆみ, 池田直隆, 他: 男性高齢者における地域サロンへの参加と地域ネットワークの関連. *保健師ジャーナル* **75**: 506-512, 2019.
- 17) 大口洋子, 原等子, 小泉美佐子: 豪雪地帯に暮らす後期高齢者のストレングスの検討. *日本ルーラルナースング学会誌* **14**: 1-13, 2019.
- 18) 丸山裕司: 地域高齢者の健康づくり活動の支援 松山市ふれあい・いきいきサロンの取り組みを焦点に. *Wellness Journal* **15**: 3-8, 2019.
- 19) 中垣内真樹, 野中愛弥, 引地優人, 他: 離島地域における高齢者サロンでの主たる活動内容の違いによる参加動機, 主観的健康効果への影響. *保健師ジャーナル* **74**: 412-418, 2018.
- 20) 田島愛, 大橋明, 橋本廣子, 他: 高齢者サロンにおける男性の参加要因に関連する探索的検討. *岐阜医療科学大学紀要* (11): 59-72, 2017.
- 21) 渡邊美樹, 鈴木みずえ, 長田久雄: 地域サロンに参加する女性高齢者の口腔の健康への認識と外出頻度との関連. *日本公衆衛生看護学会誌* **5**: 116-125, 2016.
- 22) 茂木光代: 「ふれあいサロン」が参加者に与える影響と求められる看護職の役割. *日本看護学会論文集: ヘルスプロモーション* (46): 132-135, 2016.
- 23) 西川秋子, 小石真子: ミニデイサービスに参加する独居女性高齢者の要介護リスクと主観的幸福度の関連 必要とされる介護予防プログラムの作成を目指して. *日本健康医学雑誌* **23**: 117-124, 2014.
- 24) 稲垣敦, 桜井礼子, 平野互, 他: 介護予防運動「お元気しゃんしゃん体操」の効果. *看護科学研究* **10**: 47-

- 56, 2012.
- 25) 藤村孝枝, 吉村真理, 西山真由美, 他: 地域高齢者に対する転倒予防体操教育プログラムの評価. *山口県立大学学術情報* (5): 63-71, 2012.
 - 26) 小石真子: 寝たきり予防の取り組みについて: 高齢者サロンにおける寝たきり予防からの作成から. *日本健康医学会雑誌* **20**: 87-89, 2011.
 - 27) 中林美奈子, 館香李, 富田紗世, 他: アクティビティが高い地域高齢者のQOLと睡眠健康度との関連. *日本看護学会論文集: 看護総合* (40): 150-152, 2010.
 - 28) 小石真子: インフォーマルな高齢者サロンの役割に関する一考察. *太成学院大学紀要* **11**: 225-231, 2009.
 - 29) 椎名知づる, 朴賢晶: 要支援の高齢者がふれあいサロンに適應していくプロセスにおける支援者の役割. *介護福祉学* **16**: 244-253, 2009.
 - 30) 豊田保: 参加者の視点からみた高齢者「ふれあい・いきいきサロン」の意義. *新潟医療福祉学会誌* **8**: 16-20, 2008.
 - 31) 松浪容子, 古瀬みどり: 過疎・高齢化が進むA町の高齢者サロンに参加する地域高齢者の健康に対する意識と介護保険に対する認識・ニーズ. *日本看護学会論文集: 地域看護* (38): 165-167, 2008.
 - 32) 願法廣典, 佐々木久雄, 佐藤学, 他: 秋田県横手市における「健康の駅事業」への取り組み 地域密着型・小規模健康の駅活動の紹介. *秋田理学療法* **15**: 21-23, 2007.
 - 33) 北村隆子, 臼井キミカ: 地域サロンに参加する高齢者を対象とした転倒予防プログラム バランス能力維持・改善のための足指体操の有効性. *人間看護学研究* (2): 71-78, 2005.
 - 34) 渡邊亜紀子, 藤井博之, 淵田英津子: 協働学習による『学生主体活動型地域サロン』実施後の学生が語った学びと課題. *保健医療福祉連携* **12**: 2-8, 2019.
 - 35) 高尾茂子, 古城幸子, 竹崎和子: 中山間地域における「子育て親子ふれあいサロン」づくりを体験した保健師課程選択学生の学び. *インターナショナルNursing Care Research* **17**: 47-55, 2018.
 - 36) 上村紗月, 浦田愛, 小林良二: ふれあいいきいきサロン等の調査による介護予防・日常生活支援総合事業の展開 文京区社会福祉協議会生活支援コーディネーターによる取り組みから. *地域福祉実践研究* (9): 29-38, 2018.
 - 37) 高井逸史, 高木さひろ, 黒田研二: 介護予防と生活支援の観点からみた自治会互助活動の現状. *総合リハビリテーション* **46**: 275-279, 2018.
 - 38) 黒宮亜希子: ふれあい・いきいきサロンボランティアの自由記述にみる, サロン活動の効果実感について. *吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要* (18): 25-27, 2017.
 - 39) 小石真子: 独居高齢者サロンにおける高齢者のボランティア活動の実態. *日本健康医学会雑誌* **25**: 304-307, 2016.
 - 40) 谷山麻由美, 近藤克則, 近藤尚己, 他: 長崎県松浦市における地域診断支援ツールを活用した高齢者サロンの展開 JAGESプロジェクト. *日本公衆衛生雑誌* **63**: 578-585, 2016.
 - 41) 山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 他: 地域の介護予防活動の推進における保健師の役割について 高齢者サロンの世話役及び指導員の認識から. *福岡県立大学看護学研究紀要* **13**: 35-49, 2016.
 - 42) 家根明子, 高橋晶, 廣川聖子, 他: 高齢者の介護予防をめざすボランティアへの保健師の支援 いきいきサロンボランティアの語りからの検討. *奈良学園大学紀要* **1**: 181-189, 2014.
 - 43) 倉林しのぶ: 保健師教育における技術教育 地域の高齢者サロンでの健康教育実践からの学生の学び. *高崎健康福祉大学紀要* (13): 43-51, 2014.
 - 44) 山下理恵子, 中村登志子, 洲崎好香, ほか: 急激な高齢化が進むK町における高齢者ふれあいサロン事業の評価. *日本健康医学会雑誌* **21**: 69-77, 2012.
 - 45) 橋本由利子, 高橋美砂子: 高齢者に対するDVDを使った口腔体操実施上の課題 「みんなのお口の体操」の実施アンケートから. *東京福祉大学・大学院紀要* **2**: 67-73, 2011.
 - 46) 石飛多恵子, 上村尚子, 神田詩織, 他: 住民による高齢者サロン運営の課題と対策. *鳥根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要* **6**: 125-133, 2011.
 - 47) 大久保豪, 斎藤民, 李賢情, ほか: 介護予防事業への男性参加に関連する事業要因の予備的検討 介護予防事業事例の検討から. *日本公衆衛生雑誌* **52**: 1050-1058, 2005.
 - 48) 林田陽子, 池田路子: 在宅看護職の会「さが」若葉会の成長発展とその支援. *地域医療* 第44回特集号: 214-216, 2005.
 - 49) 森岡朋子, 黒田研二, 橋田弓子, 他: 認知症ライフサポート研修受講による「認知症支援意識」の変化について 事前・事後の質問紙調査から. *日本認知症ケア学会誌* **16**: 791-801, 2018.
 - 50) 今堀まゆみ, 泉田信行, 白瀬由美香, 他: 介護予防事業の身体的・精神的健康に対する効果に関する実証分析 網走市における高齢者サロンを事例として. *日本公衆衛生雑誌* **63**: 675-681, 2016.
 - 51) 白瀬由美香, 泉田信行: 高齢者ふれあいサロンへの参加と外出行動 サロン参加者・非参加者の比較. *厚生の指標* **63**: 14-19, 2016.
 - 52) 古川明美: 高齢者サロン参加の有無と属性および社会関連性指標との関連要因. *日本看護福祉学会誌* **22**: 51-60, 2016.
 - 53) Fukasawa M., Yamaguchi H.: Effect of group activities on health promotion for the community-dwelling elderly. *Journal of Rural Medicine* **11**: 17-24, 2016.
 - 54) 古川明美, 内藤徹: 地理情報システムに基づいた高齢者サロンの最適配置に関する研究. *日本看護学会論文集: 地域看護* (44): 117-120, 2014.
 - 55) Murayama H., Nofuji Y., Matsuo E., et al: The Yabu Cohort Study: Design and Profile of Participants at Baseline. *Journal of Epidemiology* **24**: 519-525, 2014.

- 56) Hoshino A., Usui K., Katsura T.: The Development of a Town of Safety, Security and Health Project in an Area with a Very High Population Aging Rate: The Activities of a Community Salon on a Shopping Street and Their Assessment. *Journal of Rural Medicine* **6**: 65-70, 2011.
- 57) 厚生労働省. これからの介護予防
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000075982.pdf>[Accessed March 2, 2021].
- 58) 山村靖彦. 高齢者「ふれあい・いきいきサロン」の支援の指標に関する研究－ソーシャル・キャピタルに着目した地区の類型化から. *別府大学短期大学部紀要* (32): 27-41, 2013.
- 59) 高野和良, 坂本俊彦, 大倉福恵. 高齢者の社会参加と住民組織－ふれあい・いきいきサロン活動に注目して. *山口県立大学・大学院論集* **8**: 129-137, 2007.
- 60) 林孝之. サロンにおける高齢者のつながりと支え合いの形成過程－A市B地区サロン参加者インタビューから. *北星学園大学大学院論集* (2): 17-31, 2011.
- 61) 角マリ子, 多久島寛孝. 認知症カフェおよびサロンにおける認知症者とその家族支援についての文献的考察. *熊本保健科学大学研究誌* (15): 109-120, 2018.
- 62) Ichida Y, Hirai H, Kondo K, et al. Does social participation improve self-rated health in the older population?. *Soc Sci Med* **94**: 83-90, 2013.
- 63) Hikichi H, Kondo K, Takeda T, et al. Social interaction and cognitive decline: Results of a 7-year community intervention. *Alzheimers Dement* **3**: 23-32, 2017.
- 64) 河原啓. 地域に根ざした医療活動と「ふれあいサロン」
河原医院院長と糖尿病医療スタッフ. *プラクティス* **13**: 564-565, 1996.
- 65) 上岡尚代, 橋本和幸, 野田哲由, 他. 本学及び地域連携による高齢者に対する運動介入について－シニアウェルネスサロンの取り組み. *了徳寺大学研究紀要* (13): 221-233, 2019.
- 66) 真継和子, 岡本里香, 峯森好美, 他. 住民参加と協働によるコミュニティサロンを拠点とする健康づくりへの取り組み 「あいあいサロン」の活動と評価. *大阪医科大学看護研究雑誌* **3**: 168-177, 2013.

A literature review of senior salons

Akihiro Saitsu¹, Kazuhiko Kotani¹

¹ Division of Community and Family Medicine, Center for Community Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan

Abstract

In Japan, senior salons, where older people gather for various activities, have been held in communities. With a progression of a super-aging society, the concept of the salons seems to have changed, which may be reflected in the published literature. We aimed to summarize the number and subjects of articles on senior salons in the published literature. Original articles (written in Japanese) were searched and collected via the Igaku-Chuo-Zasshi and Medical Online databases. In total, 50 articles were chosen for this study. Since 2004, the number of articles on senior salons has gradually increased every year. Focusing on the reported subjects, we were able to divide the subjects into three groups as follows: participants (27 reports), salon supporters (15 reports) and the overall communities including salons (eight reports). The earlier reports focused on the participants, then studies on supporters were added, and after 2011, reports focused on communities appeared. Thus, research on senior salons might include not only information on the participants, but also elements of communities. Future longitudinal studies on development of senior salons are warranted.

(Key words: care prevention, community-based integrated care, healthy life, social activity, social capital)